

I 普通作物

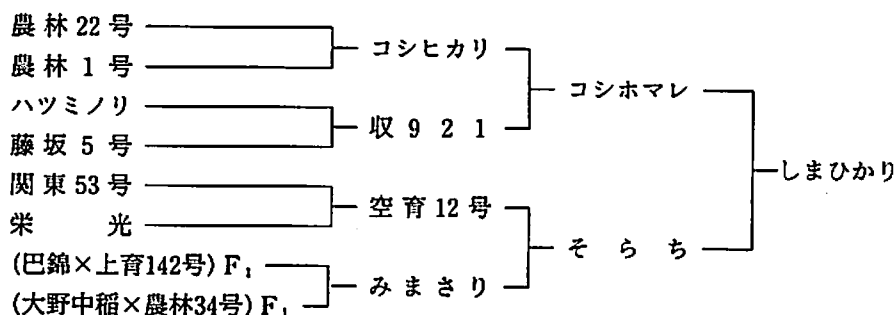
1. 水 稻

〈梗 種〉

(I) しまひかり (旧系統名 渡育214号)

登録番号：(北海道) 水稻北海道うち第28号：(種苗法) 第324号

来歴 本品種は、1969年(昭44)に北海道立道南農業試験場において、「北陸77号」(のちのコシホマレ)を母、「そらち」を父として人工交配を行い育成したもので、1975年(昭50)より「渡系5012」、1978年(昭53)以降「渡育214号」の系統名で各種の試験を行い、1981年(昭56)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 稈長は「マツマエ」なみの中、穂長は中、粒着はやや密で穂数型である。
2. ふ先色は黄白で芒はなく、脱粒性は難である。
3. 梗種で、玄米の形は「巴まさり」に類似し中、大きさはやや小で、千粒重は「マツマエ」より軽い。粒色、光沢および心白の程度は「マツマエ」とほぼ同じであるが、腹白は「マツマエ」よりやや多く、玄米の外観品質は「マツマエ」より若干劣る。搗精歩留まりは「マツマエ」より僅かに低く、精白米の透明度も「マツマエ」よりやや劣るが、白度は同程度である。
4. 初期生育は良い。出穂期は「マツマエ」より早く、穂揃性は良好。成熟期も「マツマエ」よりやや早く、晩生の早に属し、登熟性も良好である。
5. 耐倒伏性は中～やや強、いもち病抵抗性はやや強～強、障害型耐冷性はやや弱である。
6. 収量は平年では「マツマエ」なみで、「巴まさり」よりやや多収である。
7. 米粉および炊飯の物理、化学的特性は「巴まさり」よりまさり、食味は「巴まさり」なみ～ややまさる。

栽培適地と奨励態度 渡島支庁管内の中部以南および桧山支庁管内南部で、「マツマエ」の一部におきかえる。また栽培上の注意は「巴まさり」に準じてよいが、障害型耐冷性がやや弱であるため、育苗、施肥、水管理等についてはこの欠点をカバーするよう留意する。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 ($\frac{1}{2}$ m ²)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
道南農試	成苗	しまひかり	8.4	9.21	70	17.4	439	456	92	21.3	2上上	1975～ 1980
道南農試	成苗	マツマエ	8.7	9.28	74	18.0	399	493	100	23.0	2上中	1975～ 1980
	稚苗	しまひかり	8.6	9.21	65	16.5	604	400	92	20.3	1下中	1976～
		マツマエ	8.7	9.25	67	16.4	490	436	100	22.3	1下中	1980
中央農試	成苗	しまひかり	8.8	10.4	68	19.3	521	478	97	20.7	2上	1978～
		マツマエ	8.10	10.6	69	19.3	529	492	100	22.5	3上	1980
原原圃農場	"	しまひかり	8.2	9.26	68	19.8	474	610	98	21.5	2中	1978～
		マツマエ	8.6	10.4	67	19.5	486	623	100	23.1	2中	1980
北海道農試	稚苗	しまひかり	8.9	10.6	63	15.7	485	436	82	22.3	1下	
		マツマエ	"	10.5	62	15.1	475	529	100	24.0	2上	

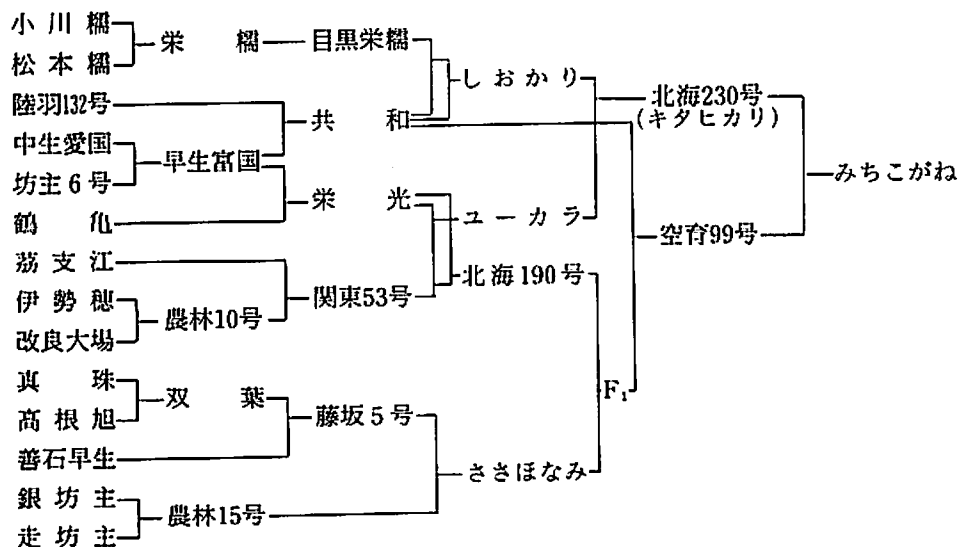
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編、昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項、3-11 (1981)。

(2) みちこがね (旧系統名 空育110号)

登録番号: (北海道) 水稻北海道うるち第29号: (種苗法) 第331号

来歴 本品種は、1973年(昭48)に北海道立中央農業試験場において、「空育99号」を母、「北海230号」(のちのキタヒカリ)を父として人工交配を行い育成したもので、1977年(昭52)より「空系52133」、1979年(昭54)以降「空育110号」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 苗の葉幅は「イシカリ」に類似するが、葉色はやや濃い。出穂始めから成熟期にかけて上部葉は立ち気味で、止葉は直立する。

2. 稈長および穂長は「キタヒカリ」よりやや短かく、粒着はやや密で偏穂数型である。

3. ふ色ならびにふ先色は黄白で、芒はなく、脱粒性は難である。

4. 梗種で、玄米の形状は「キタヒカリ」に類似し、大きさは中であるが、千粒重は「キタヒカリ」よりやや軽い。粒色は薄い飴色を呈し、光沢は良く、腹白、心白は「キタヒカリ」より少なく、外観品質は「キタヒカリ」なみである。搗精歩留まりは「イシカリ」「キタヒカリ」なみで、精白米の白度は「キタヒカリ」よりやや劣るが、透明度は「キタヒカリ」と同程度である。

5. 出穂期は「キタヒカリ」と同じ中生の中、成熟期も「キタヒカリ」とほぼ同じで中生に属するが年次や場所によりこれより2～3日遅れることがある。

6. 障害型冷害に対しては「イシカリ」よりやや強く、やや強～強と判定され、いもち病耐病性は中で「キタヒカリ」にややまさり、耐倒伏性は「イシカリ」なみの強である。割刈は「イシカリ」より少なく「キタヒカリ」なみ、葉鞘褐変は「キタヒカリ」より少ない。

7. 収量はほぼ「イシカリ」なみで、「キタヒカリ」よりまさる。

8. 食味はほぼ「キタヒカリ」なみで、「イシカリ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 石狩、空知、後志、胆振、日高支庁および上川支庁管内中央部の中生種地帯で、「イシカリ」「ともゆたか」「キタヒカリ」などに配合して栽培する。また栽培上の注意は「イシカリ」に準ずるが、出穂遅延を避けるため中苗以上の苗を使用する。なお試験の結果、1983年（昭58）に栽培適地として、渡島と桧山支庁管内の北部が追加された。

試験場名	苗の 種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期 における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
中央農 試	成苗	みちこがね	8. 8	10. 3	65	17.1	463	476	108	22.2	2 上	1977,
		キタヒカリ	8. 8	10. 3	63	17.9	466	440	100	22.7	2 中	1979～
		イシカリ	8. 6	10. 1	61	18.5	418	436	99	23.3	2 下	1981
	中苗	みちこがね	8.10	10. 7	63	16.4	577	531	103	22.1	2 上	1979～
		キタヒカリ	8.10	10. 6	65	17.4	625	515	100	22.2	2 中	1981
		イシカリ	8. 8	10. 6	63	17.9	526	529	103	23.2	2 下	
上 川 農 試	成苗	みちこがね	8. 4	9.30	64	16.2	477	565	101	21.6	1 下	1979～
		キタヒカリ	8. 4	9.26	62	16.3	503	557	100	22.0	2 中上	1981
		イシカリ	8. 1	9.26	61	17.0	475	605	109	22.5	2 中	
原原種農場	成苗	みちこがね	8. 2	9.29	56	15.9	395	451	100	22.8	2 中	1979～
		キタヒカリ	8. 4	9.28	58	17.5	445	451	100	23.0	2 中下	1981
		イシカリ	7.31	9.27	57	17.1	430	466	103	23.4	3 中	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、3—7 (1982)。

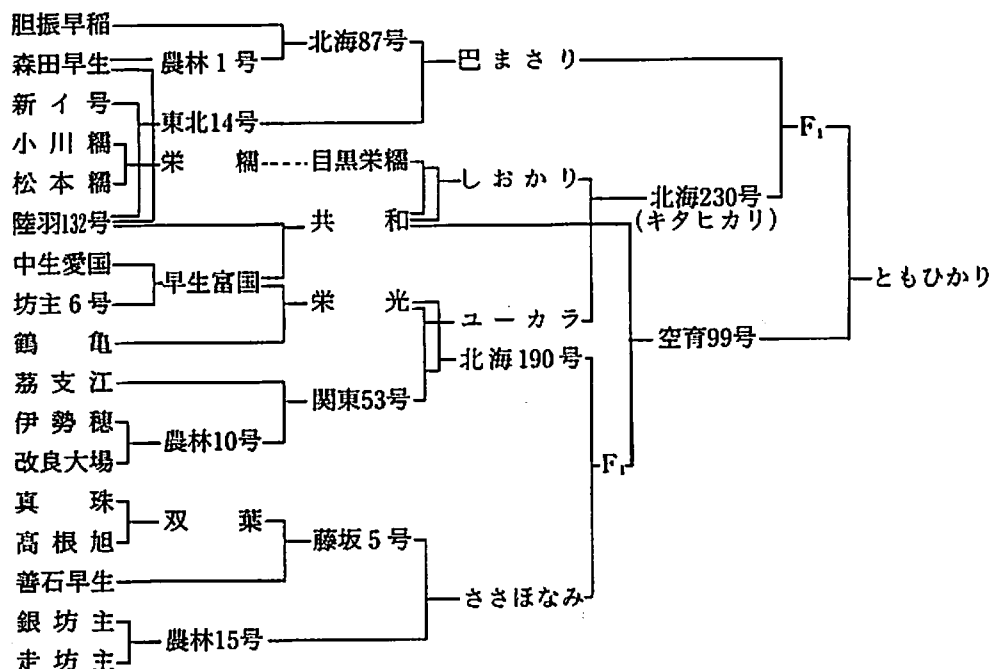
2) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、22—23 (1983)。

3) 和田定、等、北海道立農試集報、50、98—108 (1983)。

(3) ともひかり (旧系統名 空育111号)

登録番号：(北海道) 水稲北海道うち第30号；(稲苗法) 第591号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場において、「北海230号(のちのキタヒカリ)×巴まさり」F₁を母、「空育99号」を父として人工交配を行い育成したもので、1978年(昭53)より「空系53101」、1980年(昭55)以降「空育111号」の系統名で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 幼苗期の葉色や草状は「イシカリ」に類似し、分けつ初期から後期にかけての葉色は「キタヒカリ」よりやや濃く、草状は「キタヒカリ」に類似するが、株は閉じ気味である。

2. 上部葉は立ち、とくに止葉は直立状となる。また登熟が進むにつれて下葉の枯れ上がりはやや多くなる傾向がある。

3. 稈長、穂長は「イシカリ」なみ～やや短い。穂揃性は比較的良く、穂数は「イシカリ」よりやや多いが、「ともゆたか」より少ない。粒着はやや密で偏穂数型である。

4. ふ色、ふ先色は黄色で、芒はなく、脱粒性は難である。

5. 梗種で、玄米の形は「キタヒカリ」に類似し、粒大は「キタヒカリ」よりやや小さい。粒色はやや淡い胎色を呈し、光沢は良く、外観品質は「キタヒカリ」なみである。搗精歩留まりは「イシカリ」「キタヒカリ」なみで、白米の白度や透明度も「キタヒカリ」なみである。

6. 出穂期は「イシカリ」より約2日早く、早生の晩に属し、成熟期も「イシカリ」より5日前後早い早生の晩に属するが、年次や場所により出穂期が遅れ、それに伴って成熟期も遅れる傾向がある。

7. 障害型冷害に対しては「イシカリ」なみのやや強、葉いもち、穂いもち病に対する耐病性は中で「イシカリ」よりやや劣る。耐倒伏性はやや強で「イシカリ」よりやや劣り、割刈の発生は「イシカリ」より少なく「ともゆたか」なみ～やや少ない。褐変初発生は「イシカリ」

なみ～やや多いが、玄米の着色はこれより少ない。

8. 収量は「イシカリ」なみ～やや劣るが、「キタヒカリ」よりまさる

9. 食味は「キタヒカリ」なみで、「イシカリ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 道央地帯（空知、石狩、後志、胆振、上川、留萌）で「イシカリ」「ともゆたか」の一部におきかえる。また栽培に当たっては生育遅延回避のため中苗以上の苗を使用し、標準栽植密度（25株/m²）以上とするとともに、いもち病の被害を避けるため多肥栽培を避け、適期防除を行う。なお栽培適地として、1985年（昭60）に渡島と桧山の北部及び日高が追加された。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					穂長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本 m ²)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
中央農試	成苗	ともひかり	8.5	9.28	58	17.6	482	442	97	21.5	2中上	1980～ 1982
		イシカリ	8.7	10.1	62	18.5	455	457	100	23.5	2下	
		ともゆたか	8.6	10.1	60	17.7	573	492	108	23.2	3上	
	中苗	ともひかり	8.6	9.29	60	17.7	536	486	96	21.5	2上	1980～ 1982
		イシカリ	8.8	10.4	63	18.1	508	507	100	23.1	3上	
		ともゆたか	8.7	10.3	61	17.3	635	538	106	23.3	3上	
上川農試	成苗	ともひかり	8.2	9.22	63	18.0	495	605	100	21.8	1下	1980～ 1982
		イシカリ	8.2	9.24	61	17.5	478	608	100	23.1	2中上	
		ともゆたか	8.2	9.24	61	16.9	585	623	102	23.2	2上	
原原種農場	成苗	ともひかり	7.31	9.27	55	17.3	482	483	103	22.2	2中上	1980～ 1982
		イシカリ	8.1	9.28	56	17.1	431	468	100	24.0	3中下	
		ともゆたか	8.1	9.29	55	16.4	535	537	115	24.0	2下	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編. 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項. 1—6 (1983).

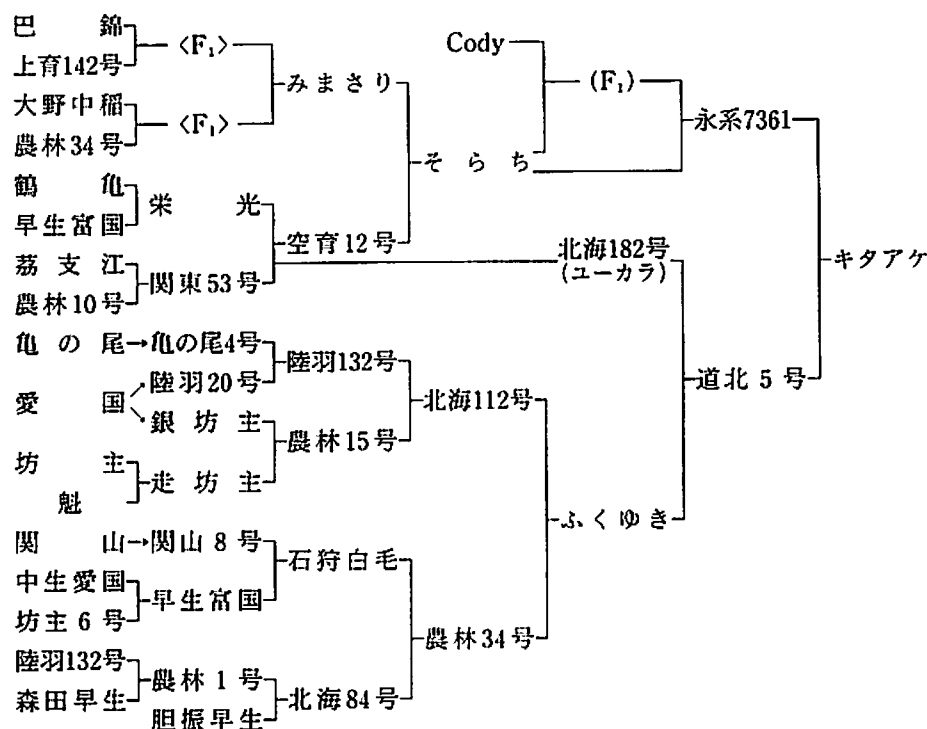
2) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 3—6 (1985).

3) 和田定, 等. 北海道立農試集報. 50, 109—119 (1983).

(4) キタアケ (旧系統名 道北36号)

登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第31号; (農水省) 水稲農林268号; (種苗法) 第594号

来歴 本品種は、1974年（昭49）に北海道立上川農業試験場において、「永系7361」を母、「道北5号」を父として人工交配を行い育成したもので、1978年（昭53）より「永系7864」、1980年（昭55）以降「道北36号」の系統名で各種の試験を行い、1983年（昭58）に優良（奨励）品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性概要 1. 幼苗期の葉色は「しおかり」に類似してやや濃く、草状も「しおかり」に類似する。
2. 稈長、穂長は「しおかり」より短く、「はやこがね」なみ。穂数は「しおかり」より多い多けつ型で、草型は穂数型、粒着はやや中である。
3. ふ色、ふ光色は黄白であるが「しおかり」よりやや淡い。稀に極く短い芒を有し、脱粒性は難である。
4. 稈種で、玄米の形は「しおかり」より良いが、「イシカリ」より円く、粒大はやや大で「しおかり」より大きい。粒色は「しおかり」より淡い飴色を呈し、光沢があり、腹白粒が発現しやすいが外観品質は「しおかり」よりまさり「イシカリ」なみである。搗精歩留まりは「しおかり」よりややまさり、白米の白度、透明度はいずれも「しおかり」よりまさる。
5. 出穂期は「しおかり」よりやや早く、成熟期は「しおかり」なみで、出穂期、成熟期とも早生の晩に属する。登熟性は「しおかり」よりやや劣る。
6. 障害型耐冷性は「はやこがね」なみの強。葉いもちに対しては「しおかり」なみの中、穂いもちには「しおかり」よりやや弱い中～やや強である。耐倒伏性は強に属し、割刈の発生は「しおかり」と同程度で少ない。
7. 収量は「しおかり」よりまさり、「イシカリ」なみの多収を示る。
8. 食味は「イシカリ」よりまさり、「しおかり」なみ～ややまさるが、「キタヒカリ」よりやや劣る。

栽培適地と奨励態度 道北、道東（上川北部、網走、十勝）の基幹品種とし、「しおかり」やその他の品種におきかえる。また道央（上川、空知、石狩、後志、胆振、日高）で偏東風の影響の大きい地帯や山間部で早生の配合品種とする。栽培に当たっては、健苗育成と適期移植につとめ、多肥栽培は避け適期収穫を励行する。また冷害回避のための深水灌漑や、いもち病の

適期防除にも留意する。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上川農試	成苗	キタアケ しおかり	7.30	9.21	58	15.0	574	551	103	22.9	1下	1979～ 1982
			8. 3	9.23	72	16.1	516	534	100	20.1	2中	
北見農試	中苗	キタアケ はやこがね	8. 4	9.23	60	13.4	609	462	100	21.8	2中	1980～ 1982
			8. 1	9.22	57	14.0	664	463	100	19.8	2中	
中央農試	成苗	キタアケ イシカリ	8. 6	9.29	60	16.2	527	480	105	23.4	2中下	"
			8. 7	10. 1	62	18.5	455	457	100	23.5	2下	
原原種農場	成苗	キタアケ イシカリ	8. 1	9.27	54	14.9	506	519	111	23.8	2中	"
			8. 1	9.28	56	17.1	431	468	100	24.0	3下	
北海道農試	成苗	キタアケ イシカリ	8. 6	9.30	64	15.2	467	461	118	22.2	2中	1981～ 1982
			8. 7	9.28	64	17.2	419	391	100	22.4	外	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。6—14 (1983)。

(5) ゆきひかり (旧系統名 空育114号)

登録番号：(北海道) 水稻北海道うち第33号：(種苗法) 第936号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道立中央農業試験場において、「北海230号(のちのキタヒカリ)×巴まさり」を母、「空育99号」を父として人工交配を行い育成したもので、1979年(昭54)より「空系53098」、1981年(昭56)以降「空育114号」の系統名で各種の試験を行い、1984(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。(なお本品種は「ともひかり」と同じ組合せから育成したものであるため、系譜は省略する)

特性概要 1. 幼苗期の草丈は短く、草状は「みちこがね」に類似し、葉色は「ともゆたか」より濃い。

2. 出穂期～穂揃期の上部葉は立ち、とくに止葉は直立状となる。

3. 稈長は「キタヒカリ」とほぼ同じで、穂長は「キタヒカリ」より長く、穂揃性は比較的良好である。穂数は「キタヒカリ」なみで、「ともゆたか」より少ない。粒着密度は中で「キタヒカリ」よりやや疎い。

4. ふ色、ふ先色は黄白で、短芒(2cm以下)を中程度(約20%)有し、脱粒性は難である。

5. 梗種で、玄米の形、大きさ、色ならびに外観品質などは「ともひかり」とほぼ同じ。搗精歩留まりは「キタヒカリ」なみで、白米の白度や透明度も「キタヒカリ」なみである。出穂期は中生の早に属し、「ともゆたか」とほぼ同じで、「キタヒカリ」より2～3日早い。成熟期は「ともゆたか」や「キタヒカリ」とほぼ同じであるが年次や場所により出穂期、成熟期とも遅れることがある。

7. 障害型冷害に対しては「ともゆたか」や「キタヒカリ」より強く、強に判定される。葉い

もち、穂いもち病に対する耐病性は共に中で、「キタヒカリ」よりやや強い。耐倒伏性は中で、「ともゆたか」より劣る。

8. 葉鞘褐変ならびに初褐変の発生は「ともゆたか」「キタヒカリ」より少なく、着色米の発生も少ない。割粃の発生は「ともゆたか」より少なく、「キタヒカリ」なみである。

9. 収量は「ともゆたか」よりやや劣るが、「キタヒカリ」より多収である。

10. アミロース含有率は「キタヒカリ」より低く、アミログラム特性値は「キタヒカリ」を上まわる。その他の食味特性も「キタヒカリ」よりすぐれ、食味は「キタヒカリ」よりまさる。

栽培適地と奨励態度 道央（空知，石狩，後志，日高，胆振ならびに上川と留萌の中南部）ならびに道南の北部（渡島と桧山の北部）地帯で「ともゆたか」「キタヒカリ」の一部におきかえる。また栽培に当っては，耐倒伏性や登熟性がやや劣るので多肥栽培は避け，初期茎数の確保と登熟向上を図るため中苗以上の苗を用い，植付本数は25株/㎡の基準密度を守って栽培する。なお試験の結果，1986年（昭61）に栽培適地として，渡島，桧山支庁の南部が追加された。

試験場名	苗の 種類	品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
中央農試	成苗	ゆきひかり	8.10	10.3*	63	18.5	460	480	111	21.6	2中	1979～ 1983
		キタヒカリ	8.13	10.4*	64	17.9	494	432	100	22.5	2中	
		ともゆたか	8.9	10.1*	61	18.0	579	476	110	23.2	3中	
	中苗	ゆきひかり	8.14	10.5*	68	19.3	552	493	115	21.3	2中	1981～ 1983
		キタヒカリ	8.17	10.5*	67	16.9	550	428	100	21.8	2下	
		ともゆたか	8.13	10.4*	65	18.4	605	478	112	22.9	3中	
上川農試	中苗	ゆきひかり	8.11	10.4	72	17.1	593	533	107	21.4	2上	1981～ 1983
		キタヒカリ	8.11	9.29	70	15.2	606	497	100	22.3	2中	
		ともゆたか	8.8	9.27	64	15.7	707	545	110	22.7	2中	
原原種農場	成苗	ゆきひかり	8.7	10.4	61	17.9	419	517	100	22.5	2中	1981～ 1983
		キタヒカリ	8.10	10.4	63	18.1	441	515	100	23.4	2中	
		ともゆたか	8.6	10.2	58	16.9	493	540	105	24.2	2下	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。*：1983年は成熟期に達せず除外した平均である。

参照 1) 北海道農務部編，昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項，1—6（1984）。

2) 北海道農務部編，昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項，3—5（1986）。

3) 和田定，等，北海道立農試集報，54，57—70（1986）。

〈編 種〉

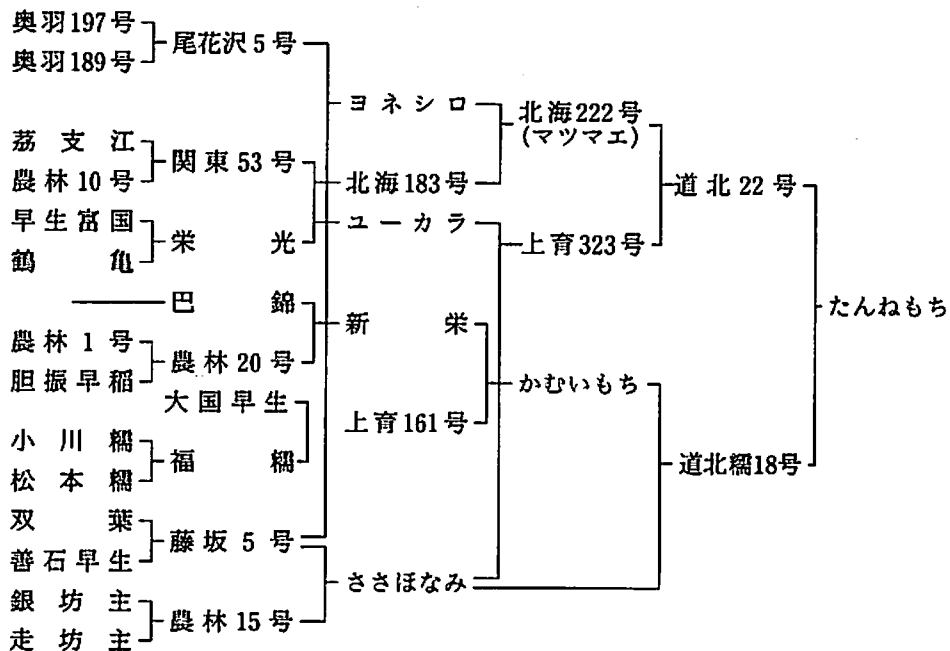
(6) たんねもち（旧系統名 上育粳381号）

登録番号：（北海道）水稲北海道もち第32号；（種苗法）第593号

来歴 本品種は，1974年（昭49）に北海道立上川農業試験場において，「道北22号」を母，「道北粳18号」を父として人工交配を行い育成したもので，1978年（昭53）より「永系78396」，1980

年(昭55)以降「上育籾381号」の系統名で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。

なお本品種の系譜は次のとおりである。



- 特性の概要 1. 幼苗期の葉色は「かむいもち」よりやや淡く、草丈の伸長程度は「かむいもち」よりまさり、葉身の先端はやや垂れ下がる。出穂期前後の葉身は立ち気味で草姿は良い。また登熟が進んでも下葉が葉鞘の枯死は少ない。
2. 稈長は「かむいもち」より短く、穂長は「かむいもち」より長い。穂数は「かむいもち」より少なく、草型は偏穂数型、粒着は「かむいもち」より密である。
3. ふ色、ふ先色は黄白、芒は少なく極短で、脱粒性は難である。
4. 糯種で、玄米の形は「かむいもち」よりやや長く、粒大は中で「かむいもち」より大きい。玄米品質は「かむいもち」よりまさり、とくに白度は明らかに良好である。搗粕歩留まりは「かむいもち」なみで、白米の白度は「かむいもち」よりまさる。
5. 出穂期は「かむいもち」より約5日早い早生の晩に属し、成熟期は「かむいもち」なみ～やや早い。
6. 障害型冷害に対しては「かむいもち」なみのやや強、遅延型冷害には「かむいもち」よりやや強い。葉いもちに対してはやや強で「かむいもち」より強く、穂いもちに対しては「かむいもち」なみの中である。耐倒伏性はやや強～強で「かむいもち」よりまさり、割穂の発生は「かむいもち」より少ない。
7. 収量は「かむいもち」より明らかに多いが、低収量水準では「かむいもち」に近くなることがある。
8. 食味および加工適性は「かむいもち」よりまさり、「おんねもち」とほぼ同じと判断される。
- 栽培適地と奨励態度 上川および留萌支庁管内の中南部、空知、石狩、後志、胆振、日高の各支庁、渡島および桧山支庁の北部、ならびにこれらに準ずる地帯で「かむいもち」におきか

える。また栽培に当たっては、登熟遅延回避のため多肥栽培は避け、必要穂数確保のため適正な栽培密度にするよう努める。なお試験の結果、栽培適地として1984年（昭59）に上川北部、留萌北部および十勝全域、1985年（昭60）に網走管内が追加されたが、成苗を用い、熟期を早めることが前提である。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					株長 (cm)	節長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上 川 農 試	成苗	たんねもち	7.29	9.24	60	16.7	464	581	118	20.7	2 下	1978～ 1982
		かむいもち	8. 3	9.26	70	15.4	482	493	100	20.0	3 上	
中 央 農 試	成苗	たんねもち	8. 8	9.30	63	17.9	438	470	103	21.3	3 上	1981～ 1982
		かむいもち	8.10	10. 4	69	16.2	523	456	100	20.2	3 中	
原原種農場	成苗	たんねもち	7.31	9.29	59	16.6	435	542	104	21.4	3 上	1980～ 1982
		かむいもち	8. 4	9.30	66	16.3	520	523	100	20.4	3 中	
北 見 農 試	中苗	たんねもち	8. 5	9.29	60	14.3	519	521	134	19.8	2 下	1981～ 1982
		かむいもち	8.10	10. 2	69	15.2	495	390	100	19.5	3 下	
北海道農試	成苗	たんねもち	8. 7	10. 3	69	17.6	405	478	105	20.2	3 中	1981～ 1982
		かむいもち	8. 8	9.29	76	15.4	425	455	100	19.4	3 下	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項。14—22 (1983)。
 2) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。6—10 (1984)。
 3) 北海道農務部編。昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項。6—9 (1985)。
 4) 佐々木多喜雄，等。北海道立農試集報。50，120—134 (1983)。

2. 小 麦

〈春播小麦〉

(I) ハルユタカ (旧系統名 北見春47号)

登録番号：(北海道) 小麦北海道春第10号；(農林省) 春播小麦農林130号；(稲苗法)

来歴 本品種は、1972年（昭47）に北海道立北見農業試験場において、「Siete Cerros × Pal 1」を母、「Tob-8156(R) × ハルヒカリ」を父として人工交配を行い育成したもので、1977年（昭52）より「北系春407」、1981年（昭56）以降は「北見春47号」の系統名で各種の試験を行い、1985年（昭60）に優良（奨励）品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。